

カルティエ、2025年大阪・関西万博 ウーマンズパビリオンの概要を発表

2025年3月6日、東京 - 3月8日の国際女性デーに先駆け、カルティエは、ウーマンズパビリオンについて発表いたします。ウーマンズパビリオンは、2025年日本国際博覧会協会および、内閣府男女共同参画局や経済産業省と独自のパートナーシップを締結。ウーマンズパビリオンでは、未来を切り開く先見性と、地球規模の発展を推進し平等を前進させ、新たな世代を導くうえで不可欠な女性の役割に焦点を当てます。

カルティエにとって、女性は尽きることのないインスピレーションの源であり、メゾンのクリエイティビティと価値観の礎であり続けています。カルティエは、「女性が輝けば、人類・社会全体が輝く」という理念のもと、長きにわたりジェンダー平等を支持し、コラボレーションや活動に積極的な機関と力を合わせ、世界の喫緊の課題に取り組んできました。この揺るぎないコミットメントを中心に据えるウーマンズパビリオンは、対話、イノベーション、集団行動を推し進める、世界的な枠組みとなります。

ウーマンズパビリオンは、2025年4月13日から10月13日まで、2025年大阪・関西万博に出展されます。

ウーマンズパビリオンは「明るい未来」を信じています。それは、ジェンダーを問わず人々が真の平等のうちに共存し、互いに尊重し合い、誰もが自分の力を最大限に発揮できる世界を意味しています。

「ウーマンズパビリオンはすべての女性と、協力者とともに未来を築くために、女性が果たす役割を称えます。この素晴らしいプラットフォームでカルティエと2025年大阪・関西万博は、個人の行動あるいは集団行動を通して、来場者を変革の旅へと導いていきます」カルティエ カルチャー&フィランソロピー会長 シルル・ヴィニユロン

2020年ドバイ万博から2025年大阪・関西万博へと続く、ウーマンズパビリオンのミッションは、将来の世代へと受け継がれるレガシーを創造するとともに、人類の叡智を紐解き、コラボレーションの力を見せること。より公平で長く持続する未来、世代を超えて共鳴する未来を築くことにあります。

万博のテーマに寄り添い、ウーマンズパビリオンはコンセプトに「ともに生き、ともに輝く未来へ」を掲げ、変革する力と、より良い未来を形づくるうえでの女性のポテンシャルを称えます。

このビジョンの中心となるテーマ「ともに生き」(Living Together) は、ジェンダーの枠を超えて対話を広げ、「共生」と「持続可能性」の複雑な相互作用を考察します。このテーマは、社会、地域、個人が、地球と共生し環境に対しどう責任を果たすのかを表しています。

また、2025年大阪・関西万博の全体テーマに調和して「ともに輝く」(Designing Together)を掲げることで、ウーマンズパビリオンは、多様な存在がシームレスに融合することで、その可能性を最大限に発揮できるビジョナリーな社会の形成を目指します。コラボレーションとイノベーションが花開く空間をつくることで、より公平な明日の基盤構築を図ります。

先を見据えたテーマ「未来へ」(For the Future)は、前向きな意見交換の場としてのウーマンズパビリオンの役割を表しています。単にこれまでの取り組みの成果や評価だけでなく、まだ実現されていない新たな願望にも焦点を当て、未来を形成し続けるレガシーを築きます。

カルティエ ジャパン プレジデント&CEO の宮地純は次のように述べます。

「2020年ドバイ万博でのコラボレーションに引き続き、2025年大阪・関西万博において再びウーマンズパビリオンを出展できることを大変光栄に思います。ジェンダーに関わらず、「ともに」輝ける未来を実現するために、私たち一人ひとりに何ができるのか。ウーマンズパビリオンでの体験が、何かを感じ、考え、行動に移すきっかけとなり、変化を加速する原動力になれば幸いです」

ウーマンズパビリオンの組子ファサードは、日本の著名な建築家、永山祐子の手掛けたもので、伝統とモダンティをつなぐ象徴的な架け橋としての役割を果たします。2020年ドバイ万博の日本館で取り入れられたこのユニークな構造は、大阪・関西万博で再利用され、持続可能性とクラフツマンシップに対するカルティエの揺るぎないコミットメントを体現します。建築家のビジョンを反映したウーマンズパビリオンは、自然、人、資源が相互に関わり合った循環を強調。地元で調達された周囲の木々は、自然の再生サイクルの象徴として、万博終了後は大阪の山々に返されます。町屋建築の構成を参照し、ウーマンズパビリオンは、幾何学模様と自然の要素をシームレスに統合し、コラボレーションと有意義な交流につながる、調和の取れた空間をつくりだします。

ウーマンズパビリオンの館内でまず来場者を迎えるのは、グローバルアーティストックリードを務める、世界的アーティストのエズ・デブリンがキュレーションする没入体験です。エズ・デブリンは、自身の先見的なアプローチから万博を「ユニークな楽器コレクション」と捉え、「各パビリオンがさまざまな楽器として、世界という舞台上で6ヶ月にわたりメッセージを発信する場」を表現します。この考えのもとウーマンズパビリオンは、ジェンダー平等に対して核心を突く視点の転換を目指します。来場者を、私的で個人的なストーリーへと導き、リフレクション(振り返り)を促し、最終的にその体験を、幅広い普遍的な世界の問題へとリンクさせます。パビリオンでは、ゲストに名前を提供してもらい、それぞれのアイデンティティがストーリーの一部に組み込まれます。この行為が象徴するのは、名前に宿る、個人的かつ普遍的な羅針盤としての力です。絶えず進化を続ける彼女の芸術活動を映し出したウーマンズパビリオンは、来場者の各グループに話し合いの場を提供します。参加型の出会いの場を通じたこのアプローチは、新たな目的や視点を駆り立てることを目指す一方、私たち全員を取り巻く気候や文明の危機的問題にも目を向けます。この没入体験は、個人の取り組みと集団行動への呼びかけを橋渡しするものであり、ウーマンズパビリオンのメッセージを物理的・時間的な境界線をはるかに越えて増幅させます。

今回、協働の精神は、ウーマンズパビリオンの没入体験全体を通じて共鳴し、素晴らしいアーティストたちによって活性化されます。日本人映画監督の河瀬直美は、ウーマンズパビリオンのプレリウドムービーを担当。フランス人女優で映画監督、アーティストでもあるメラニー・ロランは、示唆に富むポートレートや彫刻、サウンドスケープ、バーチャルリアリティを通して、女性エンパワーメントのテーマを探ります。メラニー・ロランとの協働で制作された千葉尋の革新的なクロログラフ技法によるポートレートは、独特の芸術的な厚みを添え、マルチアーティストの森万里子は、ウーマンズパビリオンが掲げる「ともに」、「人間性の共有」をテーマに作品を制作。作品は2階に展示されます。景観デザイナーの荻野寿也は、自然の世界に焦点を合わせ、持続可能な庭園を取り入れ、地域の植物をテーマに日本の移ろう四季を描写しました。sacai（サカイ）デザイナー兼クリエイティブディレクターの阿部千登勢は、ウーマンズパビリオンの案内係が着用する制服を手掛け、調和とモダンティを形にします。

こうした先見性あふれる協力者全員が一体となって、世界に対する女性の影響力の深さと幅を広げるストーリーをつくり出し、見る人の思考を大いに刺激する体験を生み出します。業種や文化を問わず集団の声が物事を変革できることを考える機会になるでしょう。

ウーマンズパビリオンの2階に位置する「WA」スペースは、アイデアの合流点としてアゴラ（ギリシャ語で人が集まる場所）の役割を果たし、講演会やパネルディスカッション、展示を通じて、主要なグローバル課題を掘り下げていきます。このスペースでは、「大いなる地球」「ビジネスとテクノロジー」「教育と政策」「芸術と文化」「フィランソロピー」「役割とアイデンティティ」という6つの重要なテーマについて意見を交わし、ビジョナリーリーダーや活動家、専門家とともに、人々の行動を喚起する発信をしていきます。

#### カルティエについて

カルティエは、世界有数のラグジュアリーメゾンとして、開かれた精神と好奇心を常に持ち、独創的なクリエイションを通じて、あらゆるものの中に潜む美を見出し続けてきました。ジュエリーやファインジュエリー、ウォッチメイキングからフレグランス、レザーグッズやアクセサリーに至るまで、多岐にわたるカルティエのクリエイションには、卓越した職人の技と時代を超越するシグネチャーが融合しています。

リシュモングループの一員であるカルティエは、旗艦店をはじめとするブティックや正規代理店、オンラインブティックを国内外で展開しています。

<https://www.cartier.jp/>

#### 2025年大阪・関西万博について

2025年大阪・関西万博は世界最大の博覧会として、「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマのもと、人類の輝きと偉業を称えます。

この比類ないイベントは2025年4月13日から10月13日までの184日にわたり開催され、2820万人の来場者が見込まれます。

[2025年大阪・関西万博公式サイト](#)